

Ⅱ 研究の概要



本 校 の 取 組

内町小学校

1 学校・地域の現況

本校は、明治4年に創立され令和3年度に150周年を迎えた歴史ある小学校である。徳島市の中心部に位置し、校区は、新町川・助任川・福島川によって周囲を取り囲まれた地形をしており、「ひょうたん島」と呼ばれている。校区内には、徳島市役所・JR 徳島駅・徳島中央警察署・徳島市東消防署・徳島地方裁判所・あわぎんホール等、公共施設が数多くある。また、校区のほぼ中央部に徳島中央公園や城山があり、市街地の中心にありながら、四季折折の自然を呈してくれる。本校は、これまで恵まれた社会環境や自然環境と積極的に関わりながら教育活動を展開してきた。

保護者は、学校の教育活動に理解があり協力的である。PTA活動にも熱心に取り組んでいる。また、地域の方々は、内町地区に強い愛着をもっており、児童の活動を陰になり日向になり支え、温かく見守ってくださっている。

校訓「至誠」の精神のもと、互いを大切にしあい、心豊かにたくましく生きる児童の育成をめざし教育活動に取り組んでいる。

2 児童の実態

本校の児童は、素直で何事にも真面目に取り組むことができる。休み時間には、多くの児童が外に出て、学年を超え仲良く遊ぶ姿も見られる。ふれあい班（1年生から6年生の児童で編成された異学年交流班）では、6年生がみんなで楽しめることを考え一緒に遊んだり、リーダーとなって清掃活動を行ったりしている。ふれあい班の時間だけでなく、高学年の児童が低学年の児童に優しく関わりながら世話をする姿がよく見られ、よい伝統となっている。友達から慕われ、頼られたり認められたりすることで自己有用感が高まっている。低学年の児童も高学年の児童から多くのことを学んでおり、社会性の育つよい機会となっている。

学習面についても意欲的に活動に取り組むことができ、基礎学力も高い児童が多い。しかし一方で、自分の良さに気付かず自信をもてない児童もいる。また、明確な答えがないものや困難に対して粘り強く取り組むことが難しい側面もある。

3 図画工作科における児童の実態

図画工作科の研究を進めるにあたり、日頃の授業における児童の様子や実態を把握し、課題を明らかにし、授業改善に取り組むため、「令和6年度全校児童を対象にした図画工作科アンケート」（巻末資料を参照）を実施した。その結果からは、「図工は好きですか」の設問に対し、全体の88%の児童が「好き」「どちらかといえば好き」と肯定的な回答をしており、実際に、作品づくりのための材料を熱心に集め、準備してくる児童も多い。また、表したいことや表し方のイメージをもち、それに向かって一心に活動している様子も見られ、図

画工作科は、多くの児童にとって楽しい授業であることが分かった。

しかしその一方で、作品づくりに対してイメージをもつことが苦手な児童や、自分の作り出した作品に自信がもてず不安そうにしている児童がいることも事実である。実際に、「完成させた自分の作品は好きですか」の設問では、「好きではない」「あまり好きではない」との否定的な回答が23%いる学年があった。また、「思い通りにいかない時に、どうすれば自分の思ったようにすることができるのかを考えることは好きですか」については、学年が上がるにつれて否定的な回答が増す傾向にあり、35%以上を占める学年もあった。さらに、最初は意欲をもって始めたものの、思い描いたイメージとの差に戸惑い、製作途中で投げ出してしまい「つくり・つくりかえ・つくる」姿が見られなくなってしまうこともある。周囲と比べて自信をもてなくなってしまうたり、途中で集中が続かなくなってしまう自分の作品に愛着がもてず、でき上がった作品の扱いが雑になったりする児童もいる。

これらのことから、児童が造形的な見方や考え方を働かせ「つくり・つくりかえ・つくる」活動を繰り返す中で、互いのよさを認め合いながら、楽しく自己を表現する児童を育てていきたいと考えた。

4 研究内容と方法

「造形的な見方・考え方を働かせ、形や色と豊かにかかわる資質・能力」を育成するために次の4つの視点で研究を進めた。

- ・育成する資質・能力を明確にした指導計画の工夫
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・指導と評価の一体化の工夫
- ・ICTの効果的な活用

(1) 育成する資質・能力を明確にした指導計画の工夫

①実態を把握し、何度も繰り返す

題材が変わっても、造形的な見方や考え方を働かせて活動できるように工夫したり、形や色についての気付きを伝えたりする活動を繰り返し行うことで、児童は安心して表現できるようにになると考える。

②ゴールを意識させることで目的意識を明確にする

「何を」「何のために」「どのようにして」を明確にし、形や色と関わり、自分の表したいことのイメージをもたせやすくすることで、活動に取り組みやすくなると考えられる。

③技能の系統性や発達段階を考え年間指導計画を作成する

教師が見通しをもって、育成したい資質・能力を明確にし、それらを向上させることができる題材を選択・配列したい。児童の発達段階や技能の系統性をふまえ、指導計画を立てることが大切である。

(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

①場の設定、用具の準備

児童の興味や関心を引き出し、新たな気づきを得られるような場や用具を整えることが、児童が主体的に活動することにつながると考える。

②交流

活動中や活動後に造形的な視点から考えを広げたり深めたりできるよう対話をする時間をとることで、自分や友達のよさや個性、新たな考えに気付くようにする。

③自分らしさ

友達から認められることで、自分では気付いていない自分のよさや自分らしさを発見したり、互いの作品に込められた工夫や表現の違いを比較ではなく多様性として捉えられるようにしたりしていくことで、「自分らしさ」「友達らしさ」をともに大切にする心が育まれ、それぞれの深い学びが実現すると考える。

(3) 指導と評価の一体化の工夫

①めあてと振り返りの記録

ワークシートやタブレットに、製作の記録を残したり振り返りや次時へのめあてを記入したりすることで、児童自身が自分の状態を把握し、スムーズに次時の活動に入ることができる。またそれらを教師は指導・評価に生かしていく。

②ためす

児童が創造的につくったり表したりしたものが思い通りにならなかったとき、つくりかえる意欲をもち続けることは難しいことが多い。何度でも、様々な方法でためしてみることができれば、安心して表し方を工夫することができると考える。

③気づきや工夫の共有

友達の表現や工夫にふれることで、自分の表現を見直す糸口になったり新しい発想に気付いたりすることができる。製作途中で話し合う時間を設けたり、気づきや振り返りを全体で共有したりして、粘り強く取り組むための手立てとしたい。

④価値付け

めざす姿を設定し、児童に声をかけたり支援したりする中で、活動を価値付けていきたい。そして、それらを造形活動への意欲や資質・能力を高める指導につなげていきたい。

⑤教師の見取り

評価や指導の改善、児童の学びの支援につなげるためにも、児童の活動の様子を観察する、児童の思いを知るなどの、継続的な教師の見取りが重要である。

(4) ICTの効果的な活用

①自分の記録を自分自身で

タブレットを用いて自分で記録を手元に残しておくことで、自分の製作過程や思考の流れを確認することができる。常に自分の思いや活動を確認められることが次の活動につながると思う。

②互いに鑑賞し伝え合う

作品の様子を学習支援ソフト上で共有することで、何度も見返したり確かめたりしながら考えを伝え合うことができる。さらに、かき込みの機能も効果的に活用し互いに鑑賞し伝え合う場を授業に位置付けていきたい。

③イメージをつかむ（発想・構想など）

教師がICTを使って視覚的に本時の活動や単元のゴールなどを提示することで、児童にイメージをもたせやすくなる。また、児童はタブレット上で何度でもかき直しができるため、つくりたいものを構想しやすくなる。

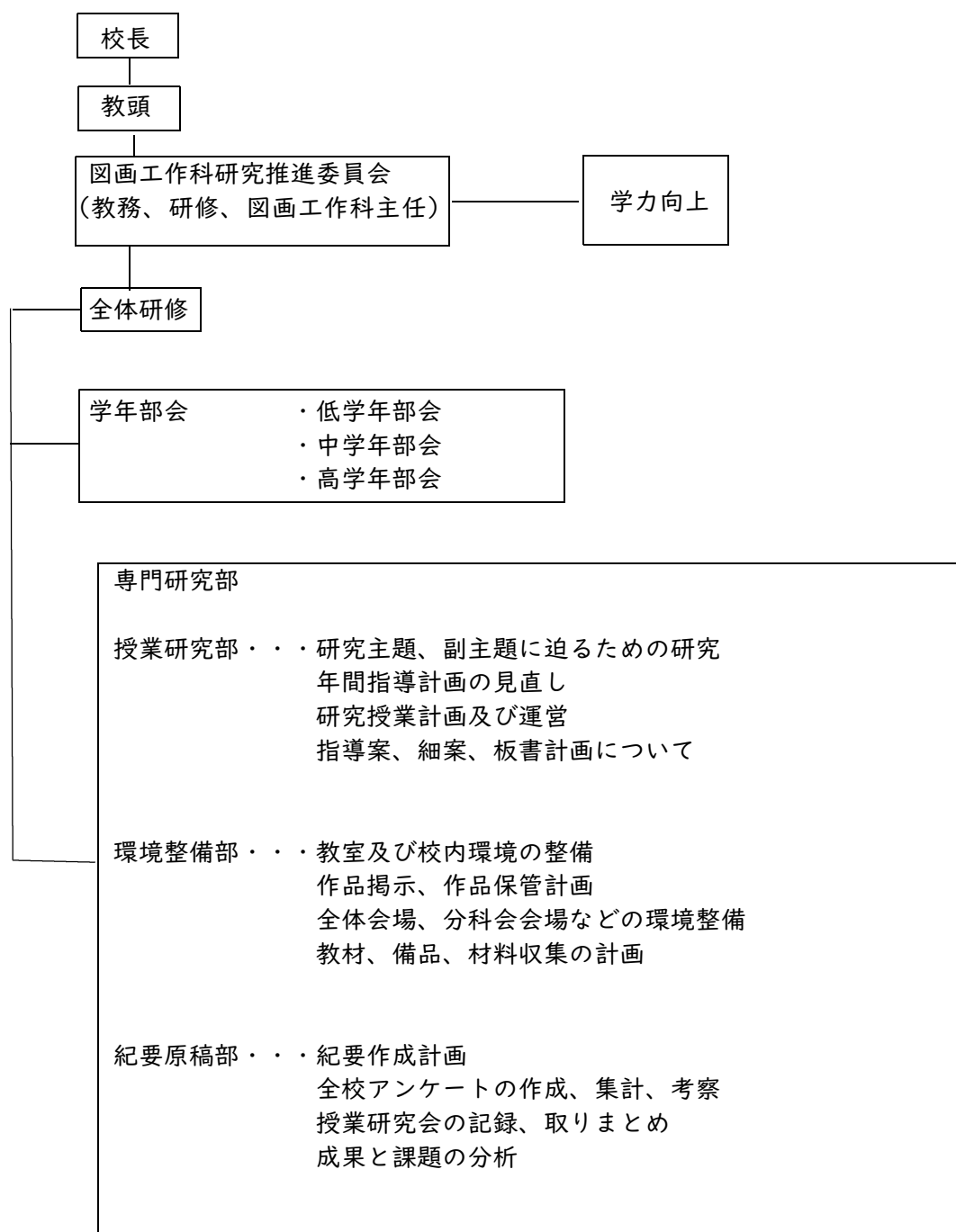
④様々な角度・大きさを

作品を一方向からだけでなく様々な角度から見たり、拡大して細部を確認したり、縮小して遠くから眺めたりすることができる。このことは、児童のものの見方や感じ方に気付きを与えることができる。

⑤記録を指導に生かす

児童が撮りためたりかきこんだりした記録から、児童の思いや思考の流れをつかみ指導に生かすことができる。

5 研究組織



6 研究のあゆみ

【令和5年度】

令和6年 2月 8日 校内研修
統一大会図工部会開催校(久勝小学校)の取組について

2月15日 校内研修「図画工作科の指導について」
教職員研修課 指導主事 森 裕二郎 先生

【令和6年度】

5月16日 校内研修「主題説明・指導案の書き方」
「ひもでつないで」
鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生

8月 7日 小学校教育研究会夏期研修
鳴門教育大学 教授 山田 芳明 先生

8月 8日 校内研修「形に命を吹き込んで」
鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生

10月17日 研究授業 2年2組「ぶくぶく あわあわ なにに見えた？」
授業者 木村 美穂
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生

10月30日 計画訪問研究授業 3年2組
「これでかきたい せかいに一つだけのふで」
授業者 矢部 有紗
指導助言 学校訪問指導員 結城 栄子 先生

10月21日 徳島市・名東郡小教研図工部会研究授業
5年2組「心のまどから見てみると」
授業者 竹内 拓也
指導助言 教職員研修課 指導主事 森 裕二郎 先生

令和7年 1月30日 研究授業 4年2組「不思議なかげの実験室」
授業者 久保 圭一郎
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 岡田 三千代 先生

【令和7年度】

- 4月17日 校内研修「研修計画について」
- 5月15日 校内研修「研究主題説明」「ぬのをつないで」
知恵島小学校 大塚 芽依 先生
- 授業検討会（4年生）
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生
- 6月4日 第65回徳島県図画工作科教育研究大会事前打ち合わせ会
- 6月24日 紀要検討会
- 6月27日 授業検討会（4年生）
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生
- 6月30日 研究授業 4年2組「不思議なかげの実験室」
授業者 久保 圭一郎
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生
- 7月2日 指導案検討会（6年生）
指導助言 徳島文理大学 結城 栄子 先生
- 7月3日 教材研究（6年生）徳島城博物館
- 7月4日 指導案検討会（1年生）
指導助言 教職員研修課 指導主事 森 裕二郎 先生
- 7月7日 授業検討会（3年生）
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生
- 7月16日 鑑賞師範授業（6年生） 「ゲルニカの謎を解こう」
指導案検討（6年生）
指導助言 徳島文理大学 結城 栄子 先生
- 7月17日 授業検討会（3年生）
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生

- 7月22日 指導案検討会(3年生)
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生

教材研究(6年生) 徳島城博物館
- 7月28日 指導案検討会(3年生)
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生

指導案検討会(1年生)
- 7月31日 校内研修「授業案内容報告」
- 8月 5日 指導案検討会(3年生)
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生
- 8月 7日 第65回徳島県図画工作教育研究大会第Ⅰ回事前研究会
指導案検討会(1・3・6年生)
指導助言 教職員研修課 指導主事 森 裕二郎 先生
鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生
徳島文理大学 結城 栄子 先生

三部会研修
- 8月21日 指導案検討会(3年生)
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生
- 8月27日 紀要検討会
- 9月 2日 紀要検討会
- 9月 4日 教材研究(1年生)

紀要検討会
- 9月10日 教材研究(1年生)
- 9月18日 三部会研修

- 9月19日 授業検討会（3年生）
指導助言 鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生
- 9月24日 授業検討会（1年生）
指導助言 教職員研修課 指導主事 森 裕二郎 先生
- 9月25日 校内研修「指導案・研究紀要について」
- 10月16日 三部会研修
- 10月24日 第65回徳島県図画工作教育研究大会第2回事前研究会
指導案検討会（1・3・6年生）
指導助言 教職員研修課 指導主事 森 裕二郎 先生
鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生
徳島文理大学 結城 栄子 先生
- 11月21日 第65回徳島県図画工作教育研究大会
指導助言 教職員研修課 指導主事 森 裕二郎 先生
鳴門教育大学附属小学校 川真田 心 先生
徳島文理大学 結城 栄子 先生